

同志社時代の山室軍平史料 — 「雑記第二号」 — (続)

室 田 保 夫

【解説】

はじめに

ここで紹介する表記の史料「雑記第二号」は山室家に襲蔵されていた「龐大な山室軍平の日記類」の一部に相当するものである。これについては、さきに『キリスト教社会問題研究』第六一号(二〇一三年一月)に「同志社時代の山室軍平史料 — 「雑記第二号」 — 」として紹介しており、今回はその続きである。「山室軍平史料」や「雑記第二号」と「同志社時代の山室」についての説明は、前掲史料紹介を参照されたい。山室の「日記類」といっても、この史料は一般的な日記とはかなり趣が違い、日付は入っているが、むしろ小論集的なものである。前掲史料紹介では一八九二(明治二五)年二月二十九日から翌年一月一三日にかけて、最初から三二篇を紹介したが、今回はその続きとして、一月二五日から五月二四日までの、残り二七篇を翻刻し紹介することにする。なおここで紹介した最後「漫言」の前の「俳諧作法指南拔書」、「太閤記」、そして末尾の三篇「福沢諭吉氏訳童蒙訓草目録」、「風阿里茶土ガ諺ノ事」、「彼ノ職ハ他人ニ得サセヨ(徒一章二十)」の計五篇については、文章の性格上今回は翻刻しなかった。翻刻に際しては「解説」と「凡例」を参照されたい。

その内容

今回紹介する中から山室の小論を少し紹介しておくことにしよう。明治二六年一月一五日の「伝道論」は小崎弘道の演説の紹介である。自己の論説ではないが、それにつき「頗ル我意ヲ得タルモノアリ」とあり、その主旨に賛同していることから、論旨への共感が推察される。その中に「社会問題ハ従来ノ箇人的傾向ニ反対シテ一頭地ヲ開キ、啻ニ貧人罪人ヲ既ニ成レルノ後ニ救フノミナラズ、其未ダ貧人タラズ罪人タラザルニ及ンテ早く適当ノ処置ヲナサント欲スルモノ、着眼奇警、処置其宜キニ合フ」と、小崎の言葉を書きとどめている。当時から山室に社会問題への関心があることが窺える。

これに関して、翌日の「境遇ヲ改革スベシ」では、「車夫ノ車夫風アル、書生ノ書生風アル、金持ノ兎ノ奢侈ナル貧窮者ノ子ノ齷齪タル、各其境遇地位ノ之ヲシテ然ラシメタル者ノミ。人ヲ侮ル勿レ、自ラ高ブル勿レ、汝ヲシテ乞食ノ家ニ長ゼシメバ嘗テ今日街頭ニ食ヲ求ムル醜郎ノ群ニ伍セザルヲ知ランヤ」、そして「境遇ヲ改革スベシ、境遇ノ制裁力ヲ上騰スベシ、社会改革ノ第一着歩ハ先ツ此ヨリ始メサルヘカラズ」と「境遇」の大切さを記している。さらに一月二六日は「貧困ノ原因」について論じている。貧困の原因を「自然的原因」と「社会的原因」とに大別し、「社会的原因」では(一)法律ノ不完全ナルガ為、(二)衛生ノ不行届ナルガ為、(三)教育ノ不行届ナルガ為、(四)風俗ノ不良ナルガ為、(五)自由制度ノ影響、(六)経済変動ノ影響、と指摘しているのは、彼の当時の貧困や、社会問題という課題への人並み以上の関心と認識が窺える。また明治二六年二月一日の「此滔々タル淫風ヲ如何セン」という論では、「社会ニ滔滔氾濫シツ、アル淫風」を改める方法として、「境遇ヲ改革スベシ」、「職業ヲ与ヘヨ」、「高潔ナル快樂ヲ与ヘヨ」、「基督教ヲ宣伝スベシ」と矯風問題について四つの策を提起している。

一方、同年二月一〇日の「石井十次兄トノ對話」では「日新島先生ハ單純ナル宗教家ニアリシ。然レトモ爾後ノ諸氏ハ皆政治家的宗教家ナラザルモノ殆ント之ナシ。余ハ恐ル此種ノ人終ニ一転シテ世俗化シ去ラル、ニ至ランヲ。十字架ハ電信柱ノ如シ一柱過去リテ更ニ一柱続々來リテ間斷アルナシ。始ニハ一度苦ヲ経レハヤレノト思ヘリ今ハ即チ次ノ苦ノ來ルヲ待テ之ニ応ズル所以ヲ思フニ至レリ。余ハミユール氏ガ十数年ノ經驗ノ做フテ數年來ハ常ニ朝ニ聖書ノ一二章ヲ讀ミ然シテ後ニ默想シ祈禱ス。読経ト祈禱是ミユール氏ガ日常勉メテ怠ラザル所ト聞ク。ミユール氏又曰聖書ヲ讀ミテ默想スルハ是レ最上ノ祈禱ナリト」と記されている。尊崇する新島、あるいは思想的影響を受けたジョージ・ミユラーといった人物が日記に登場し、それぞれ信仰について言及しているのも興味ある記述である。

「自省自言」（二六年一月二十六日）では、岩本善治と面悟した時に触れ、「二十二日岩本善治氏到ル。共ニ語ルノ間、余ハ普通学ヲ終ルト共ニ理髮師タラントスト言ヘリ、君曰余ハ其手段ヲ賛成ス、斯カル人必ズ今後ノ日本ニ起ラザルベカラズ、唯君ガ之ヲナサントスルニ至リテハ不可ナリト思フ、君ハ国民宣言者タラザルベカラスト。嗚呼余ヤ実ニ此責任アルナリ。下等社会ノ友トナルガ為ニ理髮師トナルコト、蓋シ皇天ノ使命ナルベシト雖、其以前ニ余ハ充分英語ノ力ヲ養ヒ、中以上ノ社会ニ立チテ優ニ之ガ宣言者タルノ資格ナクンバ未ダ以テ思フガ儘ニ下層ノ人々ノ為ニ力ヲ伸スニ足ラザルベシ。然リ之レ余ガ使命ナリ、今ヨリ奮勉一層英書ヲ讀ムノ力ヲ得ザルベカラズ」と認めている。

ここには「下等社会ノ友」「下層ノ人々ノ為ニ」といった文言が披見されるのも注目される。そして「漫言」（二六年五月二十四日）においても「先ツ基督ヲ拜スル者ハ單純質実、額ニ汗シテ野ニ羊ヲ牧スルノ平民ナリ。千歳万年亦常ニ斯ノ如シ否斯ノ如クナラザルベカラズ。旧教二人々ヲ見ヨ篤実ナル信者ハ皆健全ナル労作ノ人士ナ

リ」と論じている。「平民」、「健全ナル労作ノ人士」といった文言も披見できる。

以上、今回の山室の小論の一部を瞥見したもののだけでも、当時の山室の関心事がキリスト者として、伝道とともに社会問題や貧困、矯風の問題にあることが読み取れ、また下層社会への関心、常に底辺民衆に視野を入れていたことが窺える。前回の史料で紹介したものと合わせて読めば、同志社時代の彼の書き記したものに、救世軍の素地のようなものが窺える。換言すれば同志社時代に生涯の基底となる思想が形成されていたと思われ、山室の青年時代を知るに貴重な史料と言える。

凡例

- 旧漢字は原則として常用漢字に改めた。
- 句読点については原文を尊重しながらも適宜付した。
- 「ㄗ」「ㄝ」「ㄷ」等については、「コト」「シテ」「トモ」等と表記した。
- 西洋人名・地名等は、中黒点を補い表記した。原文の傍線は残した。
- 明らかな誤字と思われるものは訂正した。
- 文字疑問が残る場合は「カ」を付して傍注した。
- 判読不明なものについては□とした。
- 文章の多くに傍点や傍線が付せられており、また上欄外には書き込みが所々みられるが、それらについては今回、翻刻の対象としなかった。

【史料】

世ニ処スル三様ノ見解

二十六年一月十五日

太田錦城其著悟窓漫筆ニ於テ謂ラク、

善モ必シモ賞セラレズ、惡モ必シモ罰セラレズ、天下ノ事ハ白日二十字街上ヲ走ル様ニハナキコトナリ。左レバトテ善人ハ世ニ用ヒラレ人ニモ敬セラル、人ヲ殺セバ首ヲ刎ラレ、物ヲ盜メバ苔タル、暗夜ノ如キニモアラズ。只世ノ中ハ朦朧タル春月ノ夜ノ如キモノナリ、左レトモ君子ハ白昼ノ十字街頭ナリト心得テ世ヲ渡ルベシ。

横看成嶺側成峯、遠近高低無一同、不識廬山真面目、只緣身在此山中、夢ノ如シト云ヒ浮世ナリト云ヒ真実ナリト云ヒ虚偽ナリト云フ。世ハ其人ノ觀シ方ニ因リテソノ見エヲ異ニス。

然レトモ若シ通常人ノ眼ヲ以テ通常ニ之ヲ解セバ先ツ朧月夜位ニ觀セラル、ナルベシ。而シテ此種ノ人ハ先ツ社会一般ノ道德ヲ行ヒ時ト浮沈シ、古人ノ所謂、瓢箪ノ様ニ浮世ヲ渡ルベシ。淵デハヒヨンコ、瀬デハヒヨコノト云ヒ、西人ノ所謂人ニ好カレント思ハ、他ノ思フ如ク思ヒ謂フ如ク言エテフ語ヲ守リテ世ニ処スル者、世ノ所謂好人物タルニ適ス。

若シ得手勝手ニ世ヲ觀シテ世ハ暗夜ノ如シト云ヒ、暗黒的ノ生涯ヲ送ル人ノ如キハ固ヨリ不義姦惡ノ人、足下ヨリ鳥立チテ見ヨ一朝悔悟スルモ及ブナキノ収獲ヲ茹納メン。

彼ノ雲ノ彼方ニ明光ヲ見、暗ノ闇ニ天光ヲ臨ミ光明正大至誠ヲ以テ運動上下スル者ノ如キハ誠ニ是上帝ノ僕、基督ノ徒、因果応報ノ病理ヲ解シ至聖者ノ摂理ヲ信ズルノ人、吾人ガ立場トナスベキハ只此種ノ人ノ占メタル

位置アルノミ(羅十三〇十三)

伝道論

二十六年一月十五日

小崎校長ノ説教頗ル我意ヲ得タルモノアリ、特ニ大意ヲ此ニ掲ク。

今世紀欧米ノ基督教社会ニ新生面ヲ開ケル者蓋シニ、曰外国伝道曰社会問題。

社会問題ハ從來ノ箇人的傾向ニ反对シテ一頭地ヲ開キ、啻ニ貧人罪人ヲ既ニ成レルノ後ニ救フノミナラズ、其未ダ貧人タラズ罪人タラザルニ及ンテ早ク適當ノ処置ヲナサント欲スルモノ、着眼奇警、所置其宜キニ合フ。

外国伝道ノ今世紀ニ及ンテ始テ教会内ニ顕現シタルハ稍怪ムベキモノナキニアラズ、基督ハ早ク万国伝道ノ使命ヲ垂レ光ト塩トヲ以テ其責任ヲ教エシニ、如何ナレバ千八百年ノ久シキ因循姑息ノ間ニナスコトモナクシテ過來リタリシカ。

一ハ箇人的ノ傾向甚シカリシニ因シ、一ハ世ノ終程ナク到ルベシテフ迷信ニ朮ス。

今や辛ニ大ニ此事ニ心スルニ至リシト雖、唯其成績ノ布哇^{マダカスカ}カル等ノ野蠻未開ノ国ニ著フシテ他ノ少シク文化ニ向エル国ニ微ナルハ何ゾヤ。

「アメリカンボールド」八年々八十万円ノ金ヲ投ジテ四千人宛ノ悔改者ヲ収ム、一人平均ニ二百弗ヲ投ジテ始メテ導キ得ルノ算用トナル。

余ハ嘗テ遍ク世界ヲ廻リテ外国伝道ノ模様ヲ実察シ見度シト思ヒタルコトモアリシ。何故斯ク其成績ノ思フ様ニ行カザルカヲ研究セント思ヒタルコトナキニアラズ。

此ハ容易ニ為シ得ベキコトニアラズト雖トモ此ニ一事ノ確カナル原因トモ見ナシテ可ナリト信ゼラル、モノアリ。何ゾヤ、他国人ノ教ヲ受ルニ於テハ常ニ何カ宗教ヲ以テ自国ヲ压倒セラル、ヤノ感情ヲ凡ノ人ノ胸中ニ喚起シ易キコト此ナリ。自国ノ伝道ハ自国ノ人ニ限ルテフコト此ナリ。

日本ガ他ニ優リテ早ク教ノ広アリタルハ豈ニ日本人ノ他ニ比シテ多ク宣教ニ従事スル者アルガ為ニアラズヤ。組合教会ガ他ニ比シテ多ク良好ノ結果ヲ得タルハ又豈ニ同一ノ理由ニ因ルニアラズヤ。日本人ノ一円ハ外人ノ十円ニ価シ日本人ノ一人ハ外人ノ十人ニ当ル。此レ日本基督教会ノ活事實ガ証明シ得テ余アル所ニアラズヤ。日本人起シ日本人起テ神ノ国ヲ自国ニ起テヨ。

境遇ヲ改革スベシ

二十六年一月十六日

豈ニ只水ノ方円ノ器ニ従フノミナランヤ、布ノ黑白ニ変シ得ベキノミナランヤ、草木ト雖、岩石ト雖亦其境遇ニ従フテ其感化ヲ被ル。

新高先生嘗テ菊ノ種ヲ米人某ニ与フ、某之ヲ植ユ、一種異様ノ花ヲ得タリ。写真シテ名ヲ先生ニ質ス。之ヲ園丁ニ問フニ且能ク其類ヲ知ルコトナシ。豈ニ境遇ニ感化ヲ受テ然ルモノニアラスヤ。

埃及女王クレオパトラノ頃ニ成レル一石碑ヲ取テニユーヨーク街頭ニ建ル者アリ。埃及ニアリテハ数千年盤トシテ変スルナカリシモノ、米ニアリテハ数年ニシテ漸ク腐敗シ題字ヲ見難キニ至レリト云フ、豈ニ其地位ノ影響ヲ受ケテ然ルモノニアラスヤ。

外人ノ日本ニ来ルヤ妾ヲ蓄エ、淫ヲ貪リ、甚シキハ即チ犬姦事件ナド云フガ如キ咄々怪事ヲ演出スルニ至ル又

境遇ノ制裁ヲ免レタルガ為ニ然リ。

我京都ノ人ヲ見ルニ何ゾ因循ニシテ卑小ナルヤ。蓋シ明媚ナル山水ト文雅ナル雲上人ノ遺風トハ豈ニ之ヲシテ然ラシムルモノニアラズトセンヤ。

車夫ノ車夫風アル、書生ノ書生風アル、金持ノ児ノ奢侈ナル、貧窮者ノ子ノ齷齪タル、各其境遇地位ノ之ヲシテ然ラシメタル者ノミ。人ヲ侮ル勿レ、自ラ高ブル勿レ、汝ヲシテ乞食ノ家ニ長ゼシメバ嘗テ今日街頭ニ食ヲ求ムル醜郎ノ群ニ伍セザルヲ知ランヤ。

境遇ヲ改革スベシ、境遇ノ制裁力ヲ上騰スベシ、社会改革ノ第一着歩ハ先ツ此ヨリ始メサルヘカラズ。

民友記者曰悪事ヲナスノ境遇ニアリテ悪事ヲナサル者ハ千万人中唯一人ノミ。善行ヲナス位地ニ立テ善行ヲナサル者ハ千万人中唯一人ノミ。尋常ノ場合ニ於テハ善ノ境遇ニアル者ハ善人ナリ。悪ノ境遇ニアル者ハ悪人ナリ。然ラバ則チ知ルベキノミ。其性格ヲ改メシト欲セバ先ツ其境遇ヲ改メザルベカラズト。而シテ余輩ハ先ツ下層ノ社会ヲ救フカ為ニ適當ナル寄宿舎ヲ作ルノ極テ上策タルヲ信ジズンバアラズ。

勸告者ノ要性

二十六年一月十七日

保羅教テ曰我爾曹ガ仁慈ニ満チ凡ノ智ニ充チテ、互ニ勸得ルコトヲ信ズト(ロマ十五〇十四)此一語以テ人ニ勸告セントスル者ノ箴トナスヘシ。韓非說難ヲ作りテ説ノ難ヲ嘆ズ、説誠ニ難シ。然レトモ吾既ニ尽スベキ所ヲ尽シ言フ可キ所ヲ言フテ人ノ吾ニ聴カザル。吾ニ於テ何カアラン、吾ハ唯内ニ疚シキ所ナキヲ求ムベキノミ。(一) 智識ヲ要ス 物理ヲ弁シ事義ヲ知り、之ニ処スル所以ヲ悟リテ之ヲ言ハザルベカラズ、此レ固ヨリノコト

ナリ。

(二) 仁愛ヲ要ス 智惠アル者ニハ相談スレトモ徳アル人ニハ聽従ス。先ツ人ニ信ゼラル、ノ徳ナカルベカラズ。人ノ為ニスルノ愛ナカルベカラズ。斯クノ如クニシテ能ク人ヲ動カスノ勸告ヲ為スベシ。

義人ノ真面目

二十六年一月廿五日

武王載木主号為文王東討紂、伯夷叔齊叩馬而諫曰、父死不葬爰及干戈可謂孝乎、以臣弑君可謂仁乎左右欲兵之、太公曰此義人也。扶而去之、義人トハ果シテ斯ノ如キモノカ義人ノ真面目ハ果シテ斯ノ如キモノカ、嗚呼斯ノ如キ世ト懸ケ離レタル義人アルガ為ニ天下真正ノ義人ヲ拒絶スルコト実ニソレ幾許ゾヤ。

確言數則

二十六年一月二十五日

天欲雨而柱礎潤。

王肅曰龍拳而景雲屬、虎嘯而谷風興。

管仲曰吾始困時、嘗与鮑叔賈、分財利多自与、鮑叔不以為貪、知我貧也、吾嘗為鮑叔謀事、而更窮困、鮑叔不以為愚、知時有利不利也、吾嘗三仕三見逐於君、鮑叔不以為不肖、知我不遭時也、吾嘗三戰三走、鮑叔不以為怯、知我有老母也、公子糾敗召忽死之、吾幽囚受辱、鮑叔不以為無恥、知我不羞小節而恥功名不顯于天下也、生我者父母、知我者鮑子也。

用友ハ化合スル者ナリ和合スルモノニアラス(隨感)

箇人ヲ尊敬セヨ

二十六年一月二十五日

虞刺士斯頓伝ニ曰

先年虞氏ノ誕生日ニ際シ、氏ト生日ヲ同フセル肺患ノ一少女遙ニ賀状ヲ寄セ、中ニ「我等ノ嚮導ナル聖書」テフ文字ヲ縫箔セル一箇ノ枝折ヲ包メリ。已ニシテ此病女ノ許ニ病人ニ相応セル贈物ト共ニ虞氏ノ手書達シテ云フ、親愛ナル嬢子ヨ御身ガ左ル事情ノ中ヨリシテ、余ガ為ニ枝折リヲ製シ玉ヒシ親切ハ余ガ深ク感佩スル所ナリ。御身ガ余ノ為ニ親切ニモ望ミ玉ヘル其嚮導ノ御身ノ未來ノ旅行ニモ歩之助トナランコトヲ願フ。其旅行ニハ余モ亦若シ御身ニ先立タズハ御身ノ跡ヲ趁フコト遠ニアラザルベシ。

ト。何ゾ彼ガ慇懃ニシテ、賤人少婦ヲ思フノ切ナルヤ、豈ニ只彼ノミナランヤ。觀来レバ神ノ大ナル僕ハ多ハ皆此品性ヲ備ヘザルナシ。何事ソ獨リ余ニハ叨ニ他ヲ輕侮スルノ傲慢心アルカ、嗚呼余ハ実ニ別課神學生ヲ尊敬スルコト能ハザルナリ。余ハ実ニ固執教徒ヲ尊敬スルコト能ハザルナリ、田夫野人ト少年子弟トヲ尊敬スルコト能ハザルナリ。之ヲナス如何。之ヲナス如何。

健康

二十六年一月二十六日

之ヲ聞クバスカルノ如キハ病氣ヲ以テ基督教徒ノ殊色ナリト云ヘリト。果シテ之レ基督教徒ノ特色ナルカ、若

シ特色ナラバ之レ果シテ永久保存スベキノ特色ナルカ。

何ゾ夫レ然ラン、衰弱者ハ天職ヲ尽スニ堪エズ、又健全ナル精神ヲ有スルコトナシ。之ヲ如何ゾ基督教徒ノ特色ナリト云フコトヲ得ンヤ。

余ハ何人カノ言語ヲ記憶ス。曰流飲ハ異端ナリト。余ハ寧口深ク此語ヲ記憶セント欲ス。

余ハ又一仏書、無病自信心来、疾病自不信来ノ語アルヲ聞ケリ。而シテ此語ノ純然タル真理ヲ含ムヲ認メント欲ス。

サー・ウオーター・ラレー曰、我家屋ノ往古柳ヲ以テ造ラレタル、時ニハ却テ人ハ榭樹ノ如キ性アリシモ、今ハ我家屋ハ榭樹ヲ以テ造ラル、ニ至リ、我國民ハ柳、寧口草芥トナリ果タリト、戒メザルベケンヤ。

確言數則

二十六年一月二十六日

セン・シモン曰詩人ノ想像ハ黄金時代ヲ人類ノ搖籃、古代ノ無学粗野ナル中ニアリトセリ。余ハ信ズ、寧口之ヲ黒金ノ時代ト呼ブ方適當ナルベシ。

シモンノ病革ナルヤ其門弟オーギユスト・コント等ニ告テ曰、人々加特力教主義ノ脆弱不完全ナルコトヲ証明スルヲ得タルガ故ニ各宗教制度ノ絶滅スヘシト考フル者アリ。然レトモ彼大ニ誤レリ。余ハ信ズ、宗教ハ世界ヨリ消失スルヲ得ズ、唯変化スルヲ得ベキノミ。

貧困ノ原因

二十六年一月廿六日

自然的原因 (一) 天然ノ不具者盲啞聾瘋癲白痴等 (二) 不慮ノ出来事、両親ノ早死、地震洪水飢饉火事等
社会的原因 (一) 法律ノ不完全ナルガ為 (二) 租税 (三) 一族民ノ過權 (三) 独占売買 (四) 財政監督ノ不行届 (二)
衛生ノ不行届ナルガ為 (三) 教育ノ不行届ナルガ為 (四) 風俗ノ不良ナルガ為メ (五) 自由制度ノ影響 (六)
經濟變動ノ影響 (一) 工業變動 (二) 需用變動 (三) 人口過剩 (四) 分配不平等
遺伝的原因 (一) 不道德怠惰心等 (二) 不完全ナル家庭教育
性質的原因 (一) 懶惰 (二) 放蕩 (三) 独立心ナシ (四) 目的ノ不定
習慣的原因 (一) 飲酒 (二) 早婚
米ブラット曰有用ナル教育ノ欠乏ト偽教育トハ実ニ貧困ノ原因、又曰貧民ハ概ネ勞働ヲ以テ罰若ハ苦ノ如ク見
做スナリ。

デビユー曰自信心ノ欠乏ハ確守心独立心ヲ欠キテ叻二人ニ依頼スルニ至ル、而シテ終ニ貧困ニ陥ラズニハ止マ
ズ。

デビユー曰貧困ノ一原因ハ青年ノ目的ノ不定不確ナルニ基ク。

ヘンリー・クリュー曰飲酒貧困ノ主因ナリト。

ジョン・ジ・ロツケフエレル曰貧困ノ原因ハ一言以テ尽スヘシ曰不節制。

ジヨルヂ・イ・アツク・ネイル曰貧困ハ富ノ生産分配カ非基督教的非學術の方則ニ陥ルヨリ起ル。

名語数則

二十六年一月二十六日

愚者ニ対シテ身ヲ処スルノ仕方ハ最モ善ク其人ノ品性ヲ示ス。愛ノ真実ヲ疑フ者ハ遂ニ万物ヲ疑フニ至ル。

自省自言

二十六年一月二十六日

余ハ性急ナリ、此故ニ其弊ヤ功ヲナスニ急ニ終ニ小成ニ陥リ易シ。

二十二日岩本善治氏到ル。共ニ語ルノ間、余ハ普通学ヲ終ルト共ニ理髪師タラント言ヘリ。君曰余ハ其手段ヲ賛成ス、斯カル人必ズ今後ノ日本ニ起ラザルベカラズ、唯君ガ之ヲナサントスルニ至リテハ不可ナリト思フ、君ハ国民宣言者タラザルベカラズト。

嗚呼余ヤ実ニ此責任アルナリ。下等社会ノ友トナルガ為ニ理髪師トナルコト、蓋シ皇天ノ使命ナルベシト雖、其以前ニ余ハ充分英語ノ力ヲ養ヒ、中以上ノ社会ニ立チテ優ニ之ガ宣言者タルノ資格ナクンバ、未ダ以テ思フガ儘ニ下層ノ人々ノ為ニ力ヲ伸スニ足ラザルベシ。

然リ之レ余ガ使命ナリ、今ヨリ奮勉一層英書ヲ読ムノ力ヲ得ザルベカラズ。

古語数則

二十六年一月二十七日

四百四病ハ以夜食為本、三途八難以女人為本（淨心誠觀）女色ハ骨ヲ削ル小刀ナリ。

博得美人心肯死、項王此処是英雄。

嗚呼天佑ハ人物ヲ降スニ吝ナルヤ、今ヤ以太利ノ人口一千八百万アリ。而シテ我僅ニダンドロメルシノ二人ヲ得シノミ(那翁)

那破翁第一世ノ言

二十六年一月二十九日

那翁金字塔下ニ戰フ、謂テ曰嗚呼我兵士ヨ此塔年ヲ閱スル四千有余、而シテ今君等ノ所為如何ヲ見ヨ君等盍ソ之ヲ思ハザルヤ。

阿留ガ一度犯セル罪ハ引テ幾千万ノ後世子孫ニ及ビタリト云フガ如ク、基督ガ一度流セル血汗ハ施テ幾億兆ノ罪業ヲ救済スルト云フガ如ク、天下ノコトハ一時一刻ニシテ終ルモノニアラズ、実ニ天下万世ノ後ニ波及ス。思フテ此ニ至ル吾人ガ日常ノ言行更ニ幾段ノ警戒ヲ加エザルヲ得ンヤ。

独リ之ノミナラズ吉田松陰ガ金子重之助ニ寄スルノ書中ニモ言ヘルガ如ク、

盖方其身履之、処々甚苦、及追思之処々皆樂、苦甚者樂亦甚、苦少者樂亦少(中略)而世之人不堪其暫苦而失其久樂何也

トハ実ニ世路ノ真情ヲ穿ツ語タルヲ知ラバ自ラノ為ニモ亦其後世ニ残ス榮名ヲ思ヒ、後日ニ得ルノ喜樂ヲ思ヒ、奮然トシテ一段ノ氣力ヲ自家ノ行途ノ上ニ注射セザルヲ得ンヤ。

明窓漫言

二十六年一月二十九日

父ノ妾ヲ犯セルルベンハ是最モ多ク兄弟ノ疾苦ヲ憐ミタルノ人ニテアリシ。多情ニ因テ誤リ多情ニ因リテ成効シタル者ト云ハザルベケンヤ。後ノ情緒ニ富メル者大ニ戒ムル所ナクシテ可ナランヤ、ヨセフニ行ケトハ埃及國歩多難ノ時ニ於ルパロノ警語ナリシ。

今ヤ我日本百事当ニ多難、其レ將タ何レノ人ニカ行テ之ヲ訴エン。預言者ガ叫ブ声聞ユ。曰汝ノ生ル諸ノ子ノ中ニ汝ヲ導ク者ナク汝ノ育テタル諸ノ子ノ中ニテ汝ノ手ヲ携フル者ナシ（賽二五十一〇十八）。

英雄豪傑ノミ神ノ特別ノ使命ヲ帶ビタリト思フコト勿レ、牧者伝道者ノミ、神ノ格段ノ招ヲ受ケタリト信ズルコト勿レ。然リ此最小サキ者ノ一人モ亦実ニ主ノ幾分ノ召ヲ被ラザルハナキナリ。

明治二十六年二月一日（約一〇一至十四）七

真理ノ為ニハ大道ノ為ニハ常ニ此般己ニ因テ信ゼシムルノ人ヲ要ス。身ヲ以テ真理ノ証人タルノ人ヲ要ス。

人ハ形ヲ求ムルモノナリ、偶像ノ起原モ亦豈ニ之ガ為ニアラズヤ。然リ人ハ形ヲ求ム真理ヲ見ルベキ者トシテ形アルモノトシテ人ノ前ニ現ハスモノハ誰ゾヤ。

真理ハ冬日ノ太陽ノ如シ活動ナシ生命ナシ之ヲ生カシ之ヲ動カス者ハ誰ゾヤ。

一青年曰虞刺士斯頓若シ基督ヲ神ト信ゼバ我モ亦信奉セント。牧師即チ書ヲ英国ニ飛シテ虞氏ニ謂フ、虞氏懇切ニ答テ然リト云フ、青年即チ信奉ス。此青年ハ米國某州ノ人ナリ。吾人亦此般ノ勢力ヲ其身ニ有セザルベカラズ。

勞作二付テ

二十六年二月一日

懶惰ナル印度人ノ俚諺ニ曰走ルハ歩ムノ樂ニ如カズ、歩ムハ立ツノ樂ニ如カズ、立ツハ坐スルノ樂ニ如カズ、坐スルハ臥スノ樂ニ如カズ。懶惰ナル古人ノ口吟ニ曰世ノ中ニ寢ル程樂ナコトハナシ、起テ働ク馬鹿モアルナリ。

無為ニシテ日ヲ送ルハ果シテ快樂ナリヤ。然リ世人稍モスレバ即チシカ信ゼリ。チャールス・ラムノ如キモ亦実ニ其一人ナリシ。彼嘗テ東印度会社ノ會計タリ、一朝職ヲ罷ムルノ日大ニ喜ンテ曰我十年ニ一萬磅ヲ得ルモ如何ゾ、再ビ我獄舎ニ帰ランヤ。人生最モ善キハ無為次ハ善業ヲナスコトナラント、然レトモ二年ノ後ニハ大悟セリ、曰無勞ハ過勞ヨリモ甚ダ悪シト。

無為ハ蓋シ人ノ肉体ヲ害スル者ナリ。スピノラ嘗テホレース・ペヤーニ問フテ曰君ノ弟ハ何ガ故ニ死セル、曰為スコトナキガ為ニ死ス。曰嗚呼此一事実ニ我諸將ヲモ殺スニ足ル哉ト。仏ノ貴族ケーリユースモ亦人ノ問ニ答テ言エラク、我唯我自ラヲ殺スコトナカランガ為ニ彫刻ヲ勉ムト。

無為ハ亦実ニ人ノ心靈ヲ害スル者ナリ。語ニ曰小人閑居シテ不善ヲナス、又曰何モ為ス事ナクシテ悪事ヲナス。ゴルドン曰安逸ヨリ來ル倦厭ハ貪慾ヨリモ多ノ博徒ヲ生ジ、渴飲ヨリモ多クノ酒狂ヲ生ジ、失望ヨリモ多クノ自殺者ヲ生ズト。

既ニ肉体ヲ害ス、既ニ心靈ヲ害ス、亦何ノ快樂カアランヤ、何ノ幸福カアランヤ。心痛ノミ苦心ノミ失望ノミ怨嗟ノミ淫逸ノミ放蕩ノミ、予言者曰惡者ノ心ニ平和アルナシト。

勞作ナル哉、勞作ハ使命ヲ尽ス所以ナルノミナラズ皇天ニ奉事スル所以ナルノミナラズ実ニ又人生ノ快樂人間

ノ幸福ノ係ル所。

此滔々タル淫風ヲ如何セン

二十六年二月一日

昨夜、長崎氏ヨリ東京朝日新聞三葉ヲ借覽ス。今更ノ様ニ社会ニ滔々汜濫シツ、アル淫風ノ勢力ニ驚ケリ。之ヲ救フノ策如何、試ニ今日ノ所感ヲ録ス。

(一) 境遇ヲ改革スベシ。兼好法師曰心ハ必ズ事ニ触レテ起ルト遊女妓婦ナド云ヘル者ヲ目撃スルガ為ニ淫話蕩言ヲ耳ニスルガ為ニ其他不良不潔ノ輩ニ交際スルガ為ニ幾許カ此不義ノ僕婢トナルニ至ルニアラズヤ。パウロ曰悪交ハ善行ヲ害フト。

(二) 職業ヲ与エヨ。無為ニシテ日ヲ送ル者ニ限りテ此淫奔蕩痴ノ事ヲ工夫シ夢想シ企圖シ実行スルナリ。殊ニ婦女子ノ輩ヲ然リトナス、為スベキ事ナキガ為ニ妖姿嬌態ニモ苦心ス。之ヲ改革スルハ先ツ職業ヲ与フルニ如クハナキナリ。

(三) 高潔ナル快樂ヲ与ヘヨ。古英雄ノ生涯託ヲ繙キ職業上ニ裨益トナルベキ雜誌ヲ讀ミ、讚美歌ヲ歌ヒ妻子ト清談ス、貧人ヲ見舞フ可ナリ、隣人ト会話ス可ナリ、其他時ト所ニ合ヘル快樂、高潔ナル快樂ノ何タルヲ知ラシムルニ如ハナシ。ソレ義ニ因レル快樂程世ニ最モ快樂ナルモノハアラジ。

(四) 基督教ヲ宣伝スベシ。天ヲ畏レ真理ヲ思フ如何ゾ。不義不潔ノ所業ヲ行フコトヲ得ンヤ、況ンヤ斯カル消極ノ裨益ノミニアラズ。之ガ為ニ幾多ノ快樂例セバ古義人ノ事ヲ学ビ真理ト善行トヲ悟ルヲ得ベク、殊ニ及ボシテ自ラハ聖善ノ主人トナリ妻ハ貞潔ノ夫人トナリ子モ亦孝順ノ玉児トナル、何ノ快カ此愉快ニ如カン。況

ンヤ之ガ為ニ潔男、潔女、幾多靈ニ付ケル兄弟姉妹ニ交結スルヲ得ルニ至ルニ於テヲヤ。

格言數則

二十六年二月一日

一日二三時間宛歩行スレハ七年ニシテ地球ヲ一周スルヲ得ヘシ。人ハ習慣ノ集合体ナリ。

ロスチャイルド戒テ曰汝ノ專業ヲ固守セヨ、汝ノ醸造所ヲ保持セヨ、左ラバ汝ハ倫敦ノ大醸造家トナルベシ。汝若シ多情ニシテ醸造家トナリ製造人トナリ、麵麩家トナリ商人トナルコトアラバ更ニ又他業ニ転ゼントノ心起リテ際限ナケント。

秩序正ク事ヲナスモノハ他人ノ二倍ヲナシ得ヘシ。

スウイフト曰朝中臥床ニ横ル者ニシテ大人豪傑トナリタル者一人ダニナシ。

フランクリン曰毎朝晏ク起ル人ハ其日ヲ踏ミ憤ス者ナレバ夜間ニ至ルモ其職務ヲ果ス能ハザルベシ。

ドツドリツジ曰毎朝五時に起ルト七時二起ルトハ四十年ノ間二人間ヲ伸縮スルノ相違アリ。

ドクトル・ドロード曰夜半前一時間ノ睡眠ハ夜半後二時間ノ睡眠ヨリモ週カニ効アリ。

狂人ノ言ニモ真理アリ。

一定ノ主義ヲ立テ、事ニ当ル者ハ譬ハ高キヨリ石ヲ墮スガ如シ。其末愈々鋭クシテ愈々阻ムベカラズ。

昔者ユーリパイデスハ其友人等ガ三百篇ノ詩ヲ作ル間ニ僅カニ三篇ヲ得タリ。然レトモ其三篇ハ千歳不朽ノ者、而シテ他ハ唯其場限ノモノナリト云フ。

自己ノ精神ノ主人トナリ得ル者ハ豪傑ナリ。

昔者孔明ハ孟獲七縱七擒シテ真正ニ心服セシメタリ、基督者亦此般ノ技量ナカルベカラズ（隨感）

土耳其ノ一僧朝ニ神前ノ供物ヲ傷ケ大ニ悲嘆ス、忽チ駱駝ノ門前ヲ過ルヲ見、之ヲ撫シテ神恩ヲ乞ハント欲シ出ントシテ闕ニ蹶キ出テ、駝ノ蹴ル所トナル、忽チ心付テ言フ我今朝取紛レテ手ヲ洗ハザリシト。大多忙ノ間、一刹那ノ默然ヲ得ルノ人ニアラズンバ以テ天下ノ大事ヲ為スニ足ラズ（隨感）

母鶯外ニアリ、常ニ毒蛇ノ其兇ヲ食ハンコトヲ恐ル、其之ヲ抱テ巢ニ居タレバトテ自ラ蛇ヲ防禦スルノ力ハナキモ。

米ノ某大学ニ二學生アリ、夜々互ニ過誤ヲ忠告センコトヲ約ス。暫時ニシテ之ヲナシ能ハザルニ至ルハ勿論其室ヲモ別ニスルニ至レリト云フ。

文人騷客ノ起居其宜キヲ得能ハザル者多キハ皆頭ノ為ニ頭以下ヲ忘レタルガ為ナリ。

一章若クハ一書ヲ首尾熟読シテ全ク解スルハ十章若クハ十書ヲ半読半解スルニ優ル。

予ヲ以テオアリト言フ者ハ予ヲ知ル者ニアラズ、唯勉メタリト言ハバ可ナリ。

讀書百遍義自通。

或例外ヲ除クノ外ハ最多ク書ヲ讀ミタリト云フ者ハ最多ク将来ノ實用ニ頓着セザリシ人ナリト自白スルニ均シキ者ナリ。

時ノ事ヲ云フ程困難ナルハナク又肝要ナルハナシ。

ドクトル・フラーセルギル曰余ハ余ノ事務ヲハ一種ノ義務トシテ之ヲナシ利益ノ為ニ之ヲ為サス。然レトモ人若シ正當ニ義務ヲ果ス時、利益ハ之ニ伴隨シテ到ルヘシ。

孝行ヲシタイ時分ニ親ハナシ。

無二膏ヤ万能膏ノキ、メヨリ親孝行ソ何ニ付ケテモ。

石井十次兄トノ対話

二十六年二月十日

君曰熊本バンドノ諸氏今ヤ心ヲ合セテ独立教会建設云々ノ事ヲ主張セントセリ。然レトモ諸氏ハ常ニ神ノ国ヲ日本ニ来サントシ日本ヲ神ノ国ノ中ニ入ル、ノ心ナシ、稍モスレバ即チ失敗ヲ取ラントス。

又曰新島先生ハ單純ナル宗教家ニテアリシ。然レトモ爾後ノ諸氏ハ皆政治家的宗教家ナラザルモノ殆ント之ナシ。余ハ恐ル此種ノ人終ニ一転シテ世俗化シ去ラル、ニ至ランコトヲ。

十字架ハ電信柱ノ如シ。一柱過去リテ更ニ一柱続々来リテ間斷アルナシ。始ニハ一度苦ヲ経レハヤレノト思ヘリ。今ハ即チ次ノ苦ノ来ルヲ待テ之ニ応ズル所以ヲ思フニ至レリ。

余ハミユール氏ガ十数年ノ経験ニ倣フテ数年来ハ常ニ朝ニ聖書ノ一二章ヲ讀ミ然シテ後ニ默想シ祈祷ス。読経ト祈祷是ミユール氏ガ日常勉メテ怠ラザルノ所ト聞ク。

ミユール氏又曰聖書ヲ讀ミテ默想スルハ是レ最上ノ祈祷ナリト。

松村介石氏著保羅伝

二十六年二月十日

周圉ノ境遇ハ人ヲ造ル。

英国ノ公使某嘗テ米國ノマサチユウセツツヲ過グ人アリ。彼ニ注意シテ曰此処コソ彼有名ナルバトリック・ヘ

ンリーヲ生シタルノ処ナレ。彼於是昂然トナシテ山河ヲ俯仰シテ嘆シテ曰嗟呼此山此河果セル哉是パトリツク・ヘンリーヲ出セル者ナリト。傍ニ田叟アリ。之ヲ聴テ笑フテ曰愚ナル哉此人、予モ亦実ニ同シク此処ニ生ル。然レトモ竟ニパトリツク・ヘンリータル能ハザルナリト。

バリサイ人ニモ七種アリ。或ハ怯病ノバリサイ人ト云ヒ、或ハ震エルバリサイ人ト云ヒ、或ハ何デモスルバリサイ人ト云フト。憶フニ保羅ノ如キハ夫レ何デモスルバリサイ人ニ属シタルベキカ。

哥林多前書九〇一、後書五〇十六ヨリ保羅ハ肉ノ基督ヲ見シト云フ人モアリ。

或人曰ガマリエルハ保羅ノ第一ノ師ナリ。ステパンハ第二ノ師ナリ。(拉一〇十六、十七) 保羅ハ悔改シタル嬉サノ余直ニ伝道ヲ始メシカトモ、暫時ニシテ大ニ考フル所アリ、三年間退隱シタリト云ヘリ。カニン・フアル評シテ曰此大鷲ガ暫ク翼ヲ休メタルニ異ルナシト。

初代基督教会史ヲ讀ム

二十六年二月十日

五旬節後火ノ如ク燃ヘテ万事ヲ顧ザリシ、使徒教徒輩ノ烈信ハ直ニ産ヲ共ニシ金ヲ合セテニ二教事ノ為ニ尽スノ美挙トハナレリ。然レトモ見ヨ、經濟ノ事ハ何時迄モ斯クテ冷々ノ内ニ經過シ得ベキ者ニハアラズ。忽ニシテアナニア夫妻ノ偽善ヲ惹起シ忽ニシテ異邦の信徒ト猶太的信徒トノ間ニ施濟云々ノ争ヲ見ルニ至レリ。宗教者若シ此人生ノ傾向ヲ觀取シ巧ニ此二者ノ間ヲ調和シ来ルニアラズンバソレ如何ゾ真正ノ成効ヲ天父ノ前ニ報ン。

雑記

其レノ色ハ見エネド盲目ノ唯憂目ノミ見ルソ悲シキ。

花ノ雲、色紙、短冊酒肴入相ノ鐘ニシメテ何程ハ春色千金古河ニ流絶ヘズ。

平田篤胤著古道大意上

善与人言者因其人之言而為之言則天下之弃者服矣(蘇子由)

我ニ随テ物学ヲ輩ハ我ガ後ニ又善キ考ノ出来タランニハ必ズ々々我説ニ泥マヌガ善イ。我言ヒ置タルコトニモ違タルコトノアルヲバ其違テ居ル故ヲ言テ善考ヲ弘メヨ。一体我ガ人ヲ教フルハ道ヲ明ニセントノ事ナレバトニモカクニモ道ヲ明ニスルノガ我ヲ用ユルノジヤ。其訳ヲ思ハズシテ徒ニ我ヲ尊ムハンソリヤ我心テナイゾト(本居宣長玉勝間) 学問ハ始ヨリ其志ヲ高ク大ニ立テ其奥ノ所迄極テ尽サズハ止マイト堅ク思ヒ込ムガ善イ。此志ガ弱クテハ自ラ倦怠ルコトガ出ル者ジヤ(本居宣長)

村田橋彦ナル者アリ、本居ノ弟子タラント欲ス。本居之ニ答フルノ書中ニ曰皇朝ノ学問ニ於テハ秘事口伝ナド申スコトハ露程モ之ナク候。左様ノ義ヲ申立候ハ皆邦道ニテ候。多ク道ヲ説聞セ候ガ本意ニ候得者門弟ナラズト野生ニ於テハ秘シ申候義サラク御坐ナク候。

我欲載之空言、不如見之行事之深切著明也(孔子) 真道ハ事実ノ上ニアリテ教訓ノ上ニアラズ。孔子此理ヲ知レリ、故ニ唯春秋ヲ著シテ事実ノ上ヨリ教ヲ垂レ而シテ我ヲ知ル者ハソレ唯春秋カト云ヘリ。人ヲ教ユルニモ誰某ノ如クセヨト云フコソ力アルニアラズヤ、神道ヲ学ブニモ亦然リ、宜ク先ツ古事記ニ付テ事実ノ上ヨリ真道ヲ知ルベシ(平田之言、意訳)

意ト事ト言トハ相称ハザルベカラズ。古事記ノ如キハ然リ然ルニ、日本書紀ニ至リテハ後世ノ意ヲ以テ上代ノコトヲ書シ漢国ノ言語ヲ以テ皇国ノ意ヲ記サレタレガ故ニ相称ハズ為ニ事実ノ真ヲ失ヘルコト往々ニシテ之アリ。(同上)

雜記

二十六年二月二十六日

若シジョン・ウエスレーヲシテ今日ニ生レシメバ美以美派ハ能ク之ヲ容ル、ノ量ヲ有スルナカルベシ(マーク・ガイピールス)

コツホ氏曰「コンマバチルレン」ハ虎烈刺病ノ大原因ニシテ此細菌、体内ニ入りテ毒物ヲ生ズルニ因リテ虎烈刺病ヲ惹起スト。然ルニベツテンゴーヘル信ゼス、思ヘラク此外尚必ズ地方ノ事情ヲ加ヘズンバ虎烈刺病トハナルベカラズト、之ヲ証明試験センガ為メ終ニ昨年十月七日ヲ以テ許多ノ証人ノ前ニ純粹ナル虎烈刺病毒ノ「コンマバチルレン」ヲ飲下セリ。或ハ人ノ氏ニ代リテ之ヲナサント云フ者アリ、氏答テ曰、

余ハ実験ハ廉価ノ物体ニ於テ為セト云フ、古昔ノ医士ガ原則ニ從ヒ余ガ身体ヲ以テ実験ノ資料ニ供セン。余ハ余ノ身ヲ以テ廉価ナル物体ト看做スヲ得、何トナレバ余年已ニ七十四、糖尿ヲ患フルコト爰ニ數年、口内一齒ナリ、義齒アレトモ咀嚼ノ用ニ供シ難ク、只談話ヲ明瞭ニセンガ為ニ之ヲ用ユルニ過ギス。又老年ノ厭フベキヲ知レバナリ、而シテ余ノ信ズル所ニシテ錯誤ナランカ。余ノ試験ニシテ危険ヲ来サンカ、余ハ靜ニ死ヲ見ルベキノミ。為ニ一命ヲ喪フモ決シテ輕躁卑劣ナル自殺ト云フヲ得ザルベシ。是學事ノ為ニ一身ヲ擲ツモノニシテ恰モ軍人が戰場ニ死スルガ如キノミ。蓋シ健康及生命、世ニ於テ貴重スベキモノナルモ之ヲ以

テ人類ノ最大幸福トハ云フベカラズ。苟クモ人ニシテ獸類ヨリ高等ニ位セント欲セバ宜ク最高等思想ノ為ニハ生命及健康ヲモ犠牲ニ供スルノ覚悟ナカルベカラズ。

然レトモ終ニ死セズ其信ズル所ヲ確メタリ。

徳義ト得表

二十六年二月二十八日

宋經將ニ秦楚ノ王ニ説テ戰ヲ罷メシメントス。孟子ニ遇フ、孟子曰何ヲ以テ二王ニ説ク、曰不利ヲ以テセントス、孟子曰先生之志即大矣、先生之号則不可ト。

石井君曰今ノ伝道者ハ日本ニ神国ヲ来サントス、新島先生ハ則チ日本ヲ挙テ天国ノ中ニ入レント勉メタリト。

余ハ労役者ト基督教トヲ調和セントセリ所思フ、基督教ニアラズンバ以テ真正ノ労役者タルニ足ラズト、然レトモ基督教ノ為ニ基督教ヲ信ゼヨ得表ノ為ニ之ヲ信ズルコト勿レ

正直ハ最良ノ方便ナリ、然レトモ最良ノ方便タルガ故ニ正直ヲナスハ其行ハ既ニ正直ニアラズ。

前世後世及当世

二十六年三月九日

蘇我馬子仏ヲ拜セント請フ、天皇曰汝独立ヲナセ他人ヲ惑スコト勿レト。然レトモ天下ノ事物ハ決シテ一人ノミニテ之ヲナシ得ルモノニアラズ。一人ノ之ヲナスハ千百人ノ之ヲナスナリ、一人ノ之ヲナスヲ許スハ即千百人ノ之ヲ為スヲ許スナリ。

リ、將軍雪中ニ歩ス、其長子大跨ニ歩シテ其父ノ足跡ヲ履シテ來ルヲ見ルヤ慨然トシテ嘆シテ曰嗚呼我今日ノ
挙動ハ天下後世ノ挙動ナリ、我豈輕率ニ事ヲナスコトヲ得ンヤ。

吾人ハ先人ノ風俗慣習ヲ受ケテ之ヲ後世ニ受継ク者ナリ。而シテ吾人ガ当世ノ務ハ皆實ニ此ガ為ノ動作ニアラズヤ、
不知能ク先人ヲ辱ムルナキカ、不知能ク後世ニ愧ルナキカ、一念此ニ至レバ焉ゾ奮然トシテ蹶起セザルヲ得ンヤ。

漫言

二十六年五月二十四日

天下ヲ動カシ天下ヲ制スル者ハ常ニ調子外レノ人物ナラザルベカラズ。只其調子外レヤ時勢ニ後ル、ニアラズ
シテ時勢ニ先ツノ調子外レナリ。作意的ニ出ルニアラズシテ自然ニ発スルノ調子外タルコトヲ要ス、一郷一邑
ニ於テモ其理ハ同ジ。

基督ガ槽ノ中ニ生ル、ノ時、誰カ其神ノ聖者タルベキヲ知ン。基督ガ殿ニ詣スルノ時誰カ其殿ノ主人公タルコ
トヲ解セン。基督ガ手ガラ木匠ヲ営ム時誰カ其同ク天下ヲ經營マルノ人タルコトヲ悟ラン。基督ガ道ヲガリラ
ヤ湖辺ニ説ク時誰カ彼ガ千古ニ絶スルノ宗教家タルコトヲ信ゼン。基督ガ十字架上ニ死スルノ時、誰カ其血ヲ
以テ億兆ノ贖ヲナスト尊重セラル、ニ至ルベキヲ思ハシ。山寂々水沈々唯勉メヨ、天ヲ愛シテ其聖旨ヲ為セヨ、
神ノ聖慮ニ合ハバ其為ス所終ニ大ニ天下ニ顯ハル、ニ至ラン。

先ツ基督ヲ拜スル者ハ單純質實、額ニ汗シテ野ニ羊ヲ牧スルノ平民ナリ。千歳万年亦常ニ斯ノ如シ、否斯ノ如
クナラザルベカラズ。旧教二人々ヲ見ヨ、篤実ナル信者ハ皆健全ナル勞作ノ人士ナリ。

神ノ摂理ハ占星学ヲシテ天文学タラシメ、鍊金術ヲ導テ化学タラシメ、法術士ヲ導テ基督ヲ拜セシメ、猶太人

ノ無道ニシテ流セル血ヲ祝シテ万民救済ノ動機トシ、堅白同異ノ空論ヲシテ哲学タラシメ、英王ノ淫情ヨリシテ其国ノ宗教ヲ改革セシム、史ヲ読ンテ之ヲ觀スレハ善ノ勝チ真理ガ最後ノ戦勝者タルコト火ヲ見ルヨリモ尚明カニ知ラル。

〔付記〕本文翻刻に際しては、同志社大学人文科学研究所の竹内くみ子さんの助力を得た。記して感謝いたします。